



あぐり情報 Aguri Information

営農生活課
中嶋正宗

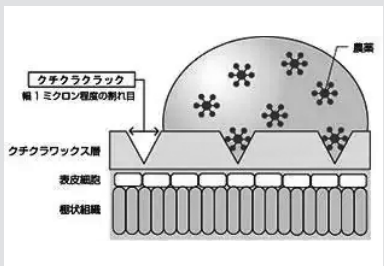
展着剤の紹介

今回は展着剤の種類と特徴についてご紹介します。

○ドライバー



ドライバーは高い濡れ性を有する展着剤です。作物への使用は殺菌剤への加用が主な使い方になります。



○サーファクタント30



サーファクタント30は除草剤用の展着剤です。濡れ性が高く、雑草表面のワックス層を溶かす効果を持つため、葉面からの薬剤吸収を促進し効果を安定させる効果を持ちます。

選択性・非選択性除草剤の種類を問わずに添加できるのも大きな特徴であり、茎葉兼土壌処理型除草剤に使用した場合にも接触効果が安定します。

植物表面にある水をはじく層であるワックス層が強く、水分をはじきやすい作物でもムラなく薬液が広がる濡れ性（湿展性）が特徴で、特にネギやキャベツの殺菌剤に混ぜることにより、安定した予防・治療効果が期待できます。また、薬液がムラなく均一に広がることにより、乾いた後の汚れを軽減することもできます。

展着剤を添加するときの問題になりやすい、泡立ちが少ないのも特徴です。



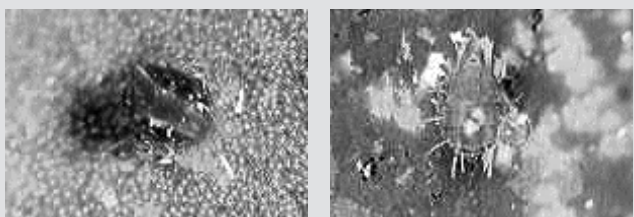
水 展着剤A ドライバー

農薬名	希釈倍率目安	湿展性	浸透性	耐雨性	懸垂性	野菜類	果樹類
ドライバー	1000~5000	◎	○	○	○	○	○
スカッシュ	1000~2000	◎	◎	○	○	○	○
アプローチBI	200~2000	○	◎	○	○	○	○
サーファクタント30	300~1000	○	◎	○	○	○	○

○スカッシュ



スカッシュは油性性の食品添加物をベースとした機能性展着剤です。作物上のワックス層を破壊せずに軟化させることで、付着性効果と濡れ性が高まります。野菜類では殺虫・殺菌剤に加用できますが、付着性の高さからダニ



スカッシュ1000倍 水のみ散布

○展着剤の使い方

複数の薬剤を混ぜて、薬液を作る場合、混ぜる順番が重要になります。

まず最初にタンクに水を張り、次に展着剤(一)を入れます。2番目に乳剤(二)と液剤を入れ、最後に水和剤(ス)とフロアブルを入れます。「テ・ニ・ス」と覚えておいてください。最初に展着剤を入れることにより、溶けにくい油である乳剤や、水和剤がスムーズに溶けるようになります。展着剤や農薬の性能を十分に引き出すには、薬剤自体の性質はもちろん、作物の特性やその時々状態も勘案することが重要になります。また、展着剤も農薬に分類されますので、使用前に適用をよく確認しておくことも重要です。



剤等の殺虫剤で、特に効果を発揮します。通常、虫は体表で水をはじくため薬剤の効果が出にくい場合がありますが、スカッシュを加用すると薬液が虫を覆うように広がるため、薬剤が本来持つ効果が期待できます。

○アプローチBI



アプローチBIは通常の展着剤の濡れを広げる効果に加え、薬液を素早くしみ込ませる効果を持った機能性展着剤です。

薬剤内の農薬成分の粒子を小さくする作用があり、細くなった薬剤成分が植物の表面にあるワックス層の割れ目から入り込むことで、素早く薬剤成分を効かせることができます。また、しみ込ませる効果により、通常の散布では薬剤がかからない箇所にいる難防除害虫の防除に特に効果を発揮します。

○機能性展着剤とは

通常の展着剤は、界面活性剤を主成分として農薬の広がり・付着性を向上させる効果を持ちます。対して機能性展着剤とは通常の展着剤の効果に加え、
・ 薬剤の浸透を促進する効果
・ 薬剤の濡れ性を向上させる効果
・ 農薬の効果を安定させる効果
等の有効成分の作用を補助する効果が付加されたものになります。そのほかの違いとしては、使用倍率が通常の展着剤は5000~10000倍ですが、機能性展着剤は1000~3000倍と比較的高濃度で使うものが多いという違いがあります。

◆農薬の適正使用について

農薬を使用する際には、ラベルの記載事項に従って、正しく使用しましょう。同一成分の使用回数に注意し、複数系統の農薬を用いたローテーション防除を行いましょう。